

景況調査

報告書

No. 105

令和6年10月～12月
令和7年1月～3月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和6年度第3四半期(令和6年10月～12月)景況調査

1. 調査時点 令和7年1月1日～1月25日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
- (2) 対象(回答)企業 101 [94 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	48 (3)	10 (2)	14 (1)	16	7 (1)	6	101 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-0.9、前期実績(-14.9)に比較すると14.0ポイントと上昇の傾向が見られ、前年同期比では、-6.0、前期実績(-9.6)に比較すると3.6ポイントと横バイの傾向が見られた。売上DI値は、前期比で21.6、前期実績(-2.1)と比較すると23.7ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で4.0、前期実績(-12.7)と比較すると16.7ポイントと上昇の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-15.8、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-0.9)と比較すると-14.9ポイントと下降の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は為替による原材料高に加え、人件費の上昇もあり利益が圧迫されている。織物は暖冬傾向の影響もあり繊維製品の荷動きが当初悪く、売上自体も苦戦した時期であった。次第に回復するも産業・消費意欲が伸び悩む状況で低調に推移した。漁網・ローブは前年同月比 生産・販売数量は横バイに対し販売金額10%程度アップ。コストアップ分の販売価格値上げが浸透し金額ベースは増加。ただし需要は横バイの傾向が続く。鉄工のうち工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は10月1,225億円、11月1,193億円、9月1,430億円。10・11月は内需外需とも対前年比をやや下回ったが、12月にかけて対前年比19%程度上昇。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正に端を発する生産抑制の影響が続いた。事業領域や車種に左右される面も大きく一部では回復の兆しも見られはじめた。化学工業は全体的に横ばいから下降傾向を訴える声が多く挙げられた。中国市況の景気回復の遅れにより輸出数量が低迷。プラスチックは主原材料の原油価格は前期比で緩やかに下落したが、為替の影響もありコスト高騰分の価格転嫁が充分でなく採算の厳しい状況が続いた。

「建設業」は公共工事、民間工事共に順調に推移しているが、技術者・作業員の不足により受注機会を逸している。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布の10～12月期は前期同様落ち込んだ状態が続いた。他の資材用途は全商材で低調な動きで低位安定の状況にあった。<インテリア>10月は秋冬物の導入時期だが伸び悩み。11月以降少しずつ動きがあり11・12月は昨年対比で上回った状況にあった。<アパレル>円安、原料高によるコストアップにより売上不振が続く状況。

「小売業」は年末の消費意欲が高揚する時期であったが、インフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分でなく、売上金額の低迷または売上の伸びに収益が比例しない状況が多く訴えられている。飲食は年末の忘年会など団体利用で繁忙期であった。ただし全体的には細分化・小グループ化が進んでいる。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は、中東情勢への警戒感による上昇局面を挟みつつ供給増や需要軟化が意識される中でやや軟調に推移70ドル台から60ドル台後半で推移した。

「サービス業」のうち旅館関係はコロナ禍前と比較して宿泊客数は7～8割程度。利用形態の変化で企業・団体等の忘年会が減少し売上確保に苦戦したが、年末年始の長期連休で個人旅行を獲得できた。コロナ前を含め、インバウンドは過去最高の人数になっているが、当地区への影響はまだ限定的。

「運輸通信業」 貨物輸送では貨物輸送では増加傾向の売上にに対し相応の利益を確保設備投資状況は、36事業所(52件)で設備投資が実施され「生産設備(34.6%)」等に投資された。来期は29事業所(44件)が「生産設備(45.5%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、原材料(燃料)高、売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和6年度第3四半期は、総合的には前年同期比・前期比で横バイ。売上の増加が相応の収益の増加に繋がらない声も多く寄せられた。業種毎では、製造業は前年同期比で利幅の縮小傾向が強く自動車業界の生産抑制の影響が各所で見られた。建設業は仕事量は堅調な反面、技術者・人手不足による機会損失が課題。卸売業・小売では消費意欲低迷の他、コストの価格転嫁に苦戦。サービス業は年末の需要期で活況ではあったが、団体から個人へシフトする志向の変化も感じられた。運輸通信業は年末の繁忙期で売上は増加も収益率の低迷が課題に。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

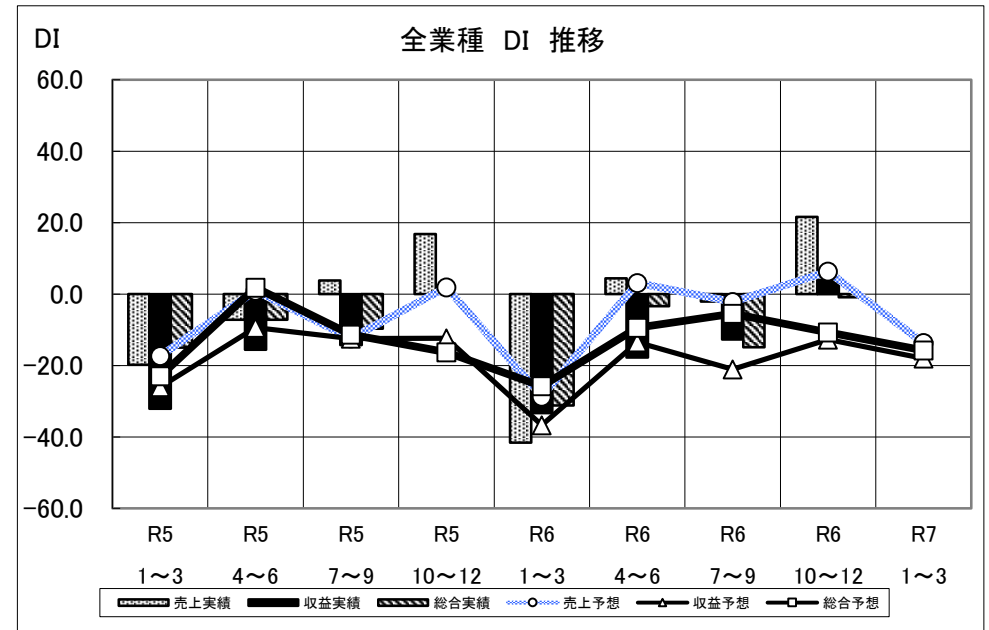
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	2.9	21.6	-13.7	R5.10～12月実績	3.0	16.8	-9.9	0.0	-9.9	0.0	-25.8
②製品・商品在庫	-9.0	-11.0	-13.2	R6.1～3月実績	-19.8	-41.6	-31.2	-33.3	-21.9	-31.2	-9.4
③資金繰り	0.9	5.0	-8.0	R6.4～6月実績	-5.6	4.4	-25.6	-17.8	-16.6	-3.4	-5.5
④採算(収益)	-19.0	4.0	-18.0	R6.7～9月実績	-4.2	-2.1	-23.1	-12.7	-9.6	-14.9	-10.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	2.0	3.0	5.0	R6.10～12月実績	2.9	21.6	-19.0	4.0	-6.0	-0.9	-15.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.0	-0.9	-15.8								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-19.8	-7.2	3.8	16.8	-41.6	4.4	-2.1	21.6	-13.7
収益	-32.1	-15.6	-14.3	0.0	-33.3	-17.8	-12.7	4.0	-18.0
総合	-15.0	-7.2	-9.7	0.0	-31.2	-3.4	-14.9	-0.9	-15.8

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| (注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少) | 採算(収益) :DI=(上昇)-(下降) |
| 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加) | 従業員数 :DI=(増加)-(減少) |
| 資金繰り :DI=(好転)-(悪化) | 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化) |

- | |
|-----------------|
| DIが0より大 ⇒ 景気上向き |
| DIが0 ⇒ 景気横ばい |
| DIが0より小 ⇒ 景気下向き |

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6~49% DI 5~-5%



DI -6~-49% DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は16.6、前期実績(7～9月期-18.6)に比して35.2ポイントの上昇、収益DI値は-2.2、前期実績(7～9月期-25.6)に比して23.4ポイントの上昇、総合判断DI値は-10.5、前期実績(7～9月期-14.3)に比して3.8ポイントの横バイとなった。

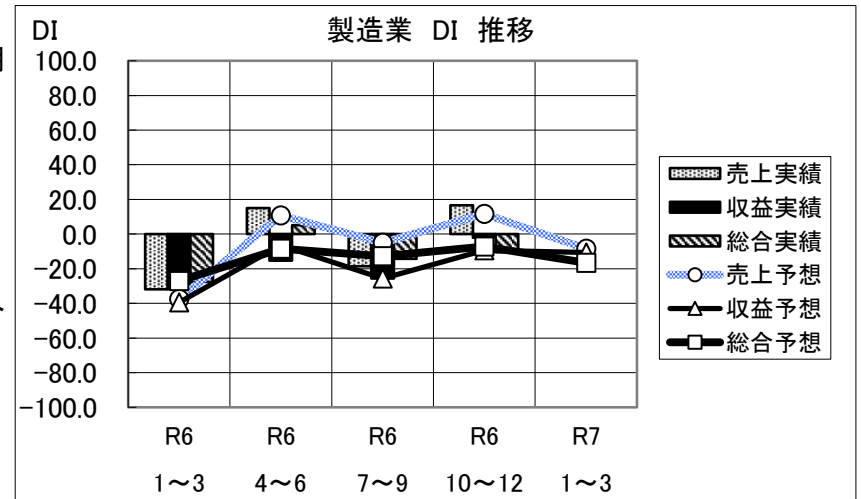
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-8.4ポイントの下降、収益DI値は-10.6ポイントの下降、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-4.1	16.6	-8.4
②製品・商品在庫	-6.2	-6.2	-4.1
③資金繰り	-8.4	-2.0	-6.2
④採算(収益)	-27.7	-2.2	-10.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.3	-6.3	6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.4	-10.5	-16.7



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-31.9	15.0	-18.6	16.6	-8.4
収益	-31.9	-15.4	-25.6	-2.2	-10.6
総合	-27.6	5.1	-14.3	-10.5	-16.7

[食料品]

売上DI値は66.7、前期実績(7～9月期-42.8)に比して109.5ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(7～9月期-57.1)に比して57.1ポイントの上昇、総合判断DI値は33.3、前期実績(7～9月期-42.9)に比して76.2ポイントの上昇となった。為替による原材料高に加え、人件費の上昇もあり利益が圧迫されている。

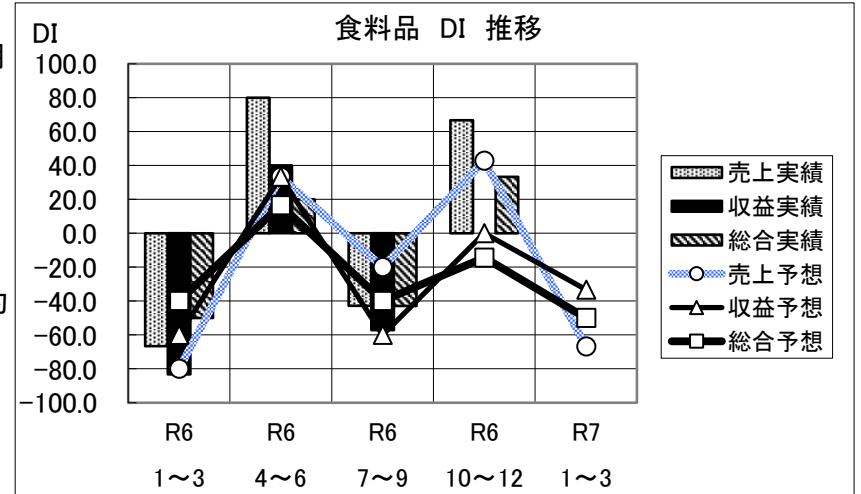
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-66.7ポイントの下降、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。国内外からの原材料調達の不安定さに加え、円安傾向も加わって情勢的には厳しい

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	66.7	-66.7
②製品・商品在庫	-16.6	-33.3	0.0
③資金繰り	16.7	16.7	-16.7
④採算(収益)	-16.6	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.6	-16.6	-16.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	33.3	-50.0



<業況判断DIの推移>

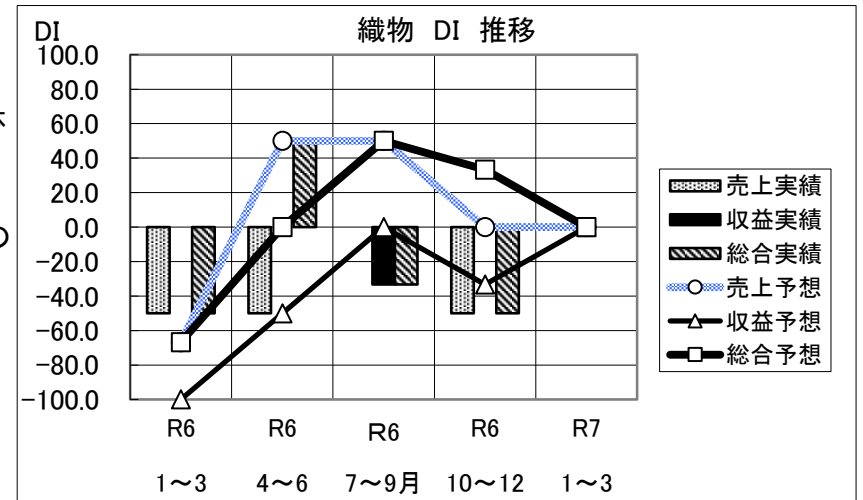
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-66.6	80.0	-42.8	66.7	-66.7
収益	-83.3	40.0	-57.1	0.0	-33.3
総合	-50.0	20.0	-42.9	33.3	-50.0

【織物】

売上DI値は-50.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して-50.0ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(7~9月期-33.3)に比して33.3ポイントの上昇、総合判断DI値は-50.0、前期実績(7~9月期-33.3)に比して-16.7ポイントの下降となった。暖冬傾向の影響もあり繊維製品の荷動きが当初悪く、売上自体も苦戦した時期であった。次第に回復するも産業・消費意欲が伸び悩む状況で低調に推移した。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。消費意欲の回復が遅れており、水面下の見通しが続く。



(織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	-50.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-100.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-50.0	0.0

<業況判断DIの推移>

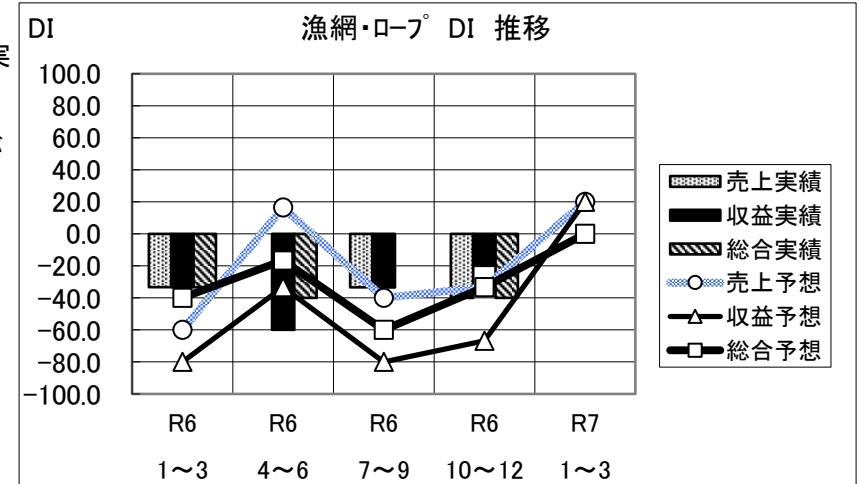
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	-50.0	0.0	-50.0	0.0
収益	0.0	0.0	-33.3	0.0	0.0
総合	-50.0	50.0	-33.3	-50.0	0.0

【漁網・ロープ】

売上DI値は-40.0、前期実績(7~9月期-33.4)に比して-6.6ポイントの下降、収益DI値は-20.0、前期実績(7~9月期-33.4)に比して13.4ポイントの上昇、総合判断DI値は-40.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して-40.0ポイントの下降となった。前年同月比 生産・販売数量は横バイに対し販売金額10%程度アップ。コストアップ分の販売価格値上げが浸透し金額ベースは増加。ただし需要は横バイの傾向が続く

向こう3カ月の見通し

売上DI値は20.0ポイントの上昇、収益DI値は20.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。水産関係は11~1月まで例年閑散期になる。業界の傾向では4~9月が繁忙期で特殊要因がなければ概ねこの傾向の見込み。



(漁網・ロープ)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-40.0	20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-20.0
③資金繰り	0.0	0.0	20.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-40.0	0.0

<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-33.3	0.0	-33.4	-40.0	20.0
収益	-33.3	-60.0	-33.4	-20.0	20.0
総合	-33.3	-40.0	0.0	-40.0	0.0

【鉄工】

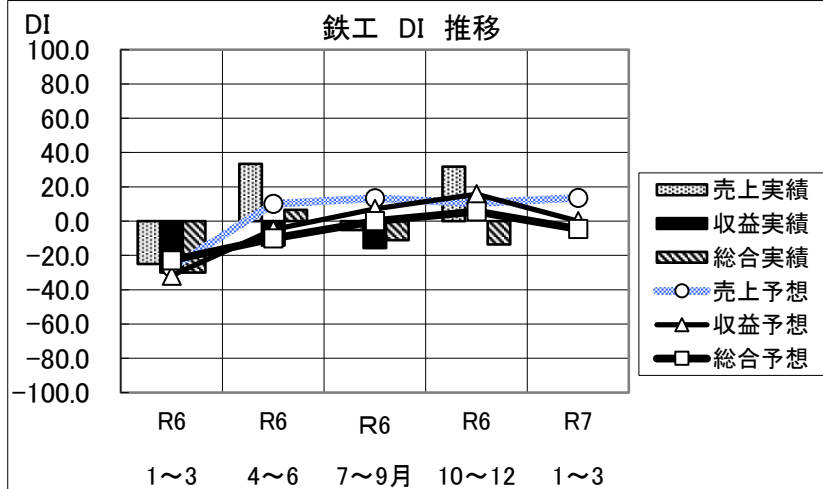
売上DI値は31.8、前期実績(7～9月期-5.2)に比して37.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(7～9月期-15.8)に比して15.8ポイントの上昇、総合判断DI値は-13.6、前期実績(7～9月期-11.1)に比して-2.5ポイントの横バイとなった。工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は10月1,225億円、11月1,193億円、9月1,430億円。10・11月は内需外需とも対前年比をやや下回ったが、12月にかけ対前年比19%程度上昇。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正に端を発する生産抑制の影響が続いた。事業領域や車種に左右される面も大きく一部では回復の兆しも見られはじめた。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は13.6ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-4.6ポイントの横バイとなっている。一般的に自動車関係中心に内需は伸び悩んでいるが、工作機械はじめ外需は回復基調にある。米国トランプ政権の通商政策に対する懸念・不透明感を示す声が挙げられた。自動車関係では、トヨタグループの日当たり生産台数は14,000台と認証不正による挽回生産の本格化が伝えられているが、足元では業界の構造変化も受けて二極化が進む。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	13.7	31.8	13.6
②製品・商品在庫	-4.5	-4.5	-9.1
③資金繰り	-9.1	-4.5	-4.6
④採算(収益)	-27.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-9.1	-13.7	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-22.7	-13.6	-4.6



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-25.0	33.4	-5.2	31.8	13.6
収益	-30.0	-14.3	-15.8	0.0	0.0
総合	-30.0	6.6	-11.1	-13.6	-4.6

【化学・プラスチック】

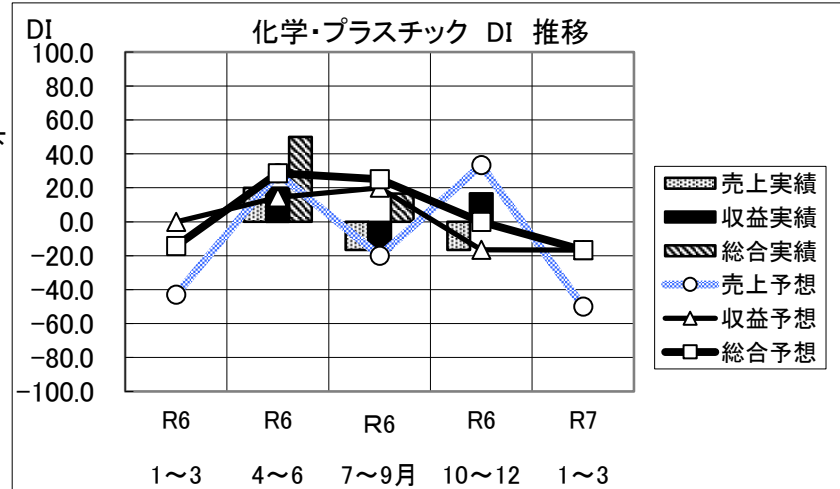
売上DI値は-16.6、前期実績(7～9月期-16.6)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は16.7、前期実績(7～9月期-16.6)に比して33.3ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7～9月期16.6)に比して-16.6ポイントの下降となった。<化学>全体的に横ばいから下降傾向を訴える声が多く挙げられた。中国市況の景気回復の遅れにより輸出数量が低迷。<プラスチック>主原材料の原油価格は前期比で緩やかに下落したが、為替の影響もありコスト高騰分の価格転嫁が充分できず採算の厳しい状況が続いた。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-16.7ポイントの下降、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。<化学>今期と同様の傾向が続く見込み<プラスチック>中国景気後退の影響や米国通商政策の変更もあり海外需要に力強さが感じられない。自動車関連の挽回生産など需要回復に期待。

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-16.6	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	16.7	16.7
③資金繰り	16.7	0.0	0.0
④採算(収益)	16.7	16.7	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	16.7	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	0.0	-16.7



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	0.0	20.0	-16.6	-16.6	-50.0
収益	0.0	20.0	-16.6	16.7	-16.7
総合	0.0	50.0	16.6	0.0	-16.7

建設業

売上DI値は40.0、前期実績(7~9月期-14.3)に比して54.3ポイントの上昇、収益DI値は10.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して10.0ポイントの上昇、総合判断DI値は10.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して10.0ポイントの上昇となった。公共工事、民間工事共に順調に推移しているが、技術者・作業員の不足により受注機会を逸している。

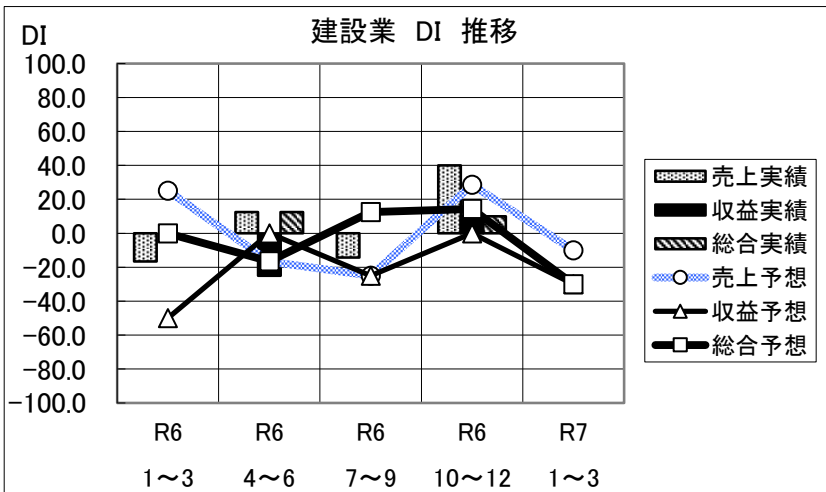
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-10.0ポイントの下降、収益DI値は-30.0ポイントの下降、総合判断DI値は-30.0ポイントの下降となっている。年度末の需要期にあり公共工事、製造業を中心とした民間工事共に需要はあるが人員確保が課題となる。

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	40.0	-10.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-11.1
③資金繰り	10.0	10.0	-10.0
④採算(収益)	0.0	10.0	-30.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-30.0	-20.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	10.0	10.0	-30.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-16.6	12.5	-14.3	40.0	-10.0
収益	0.0	-25.0	0.0	10.0	-30.0
総合	0.0	12.5	0.0	10.0	-30.0

卸売業

売上DI値は21.4、前期実績(7~9月期16.6)に比して4.8ポイントの横バイ、収益DI値は21.5、前期実績(7~9月期8.3)に比して13.2ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期-16.7)に比して16.7ポイントの上昇となった。

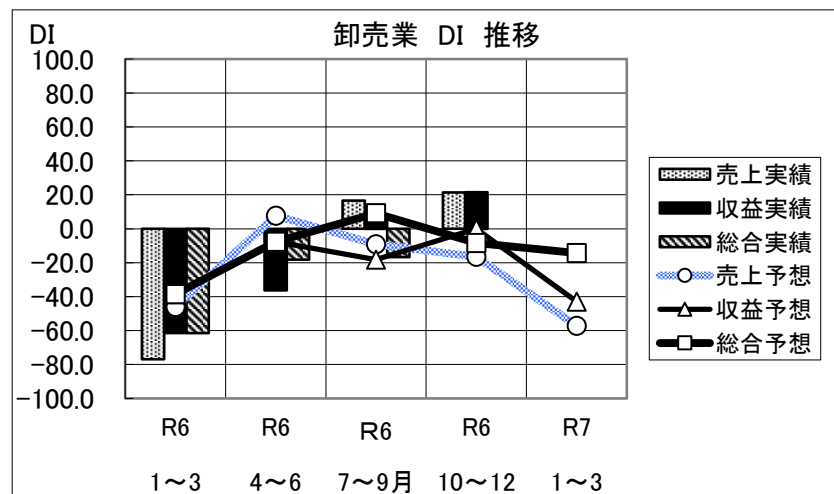
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-57.2ポイントの下降、収益DI値は-42.9ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3ポイントの下降となっている。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-35.7	21.4	-57.2
②製品・商品在庫	-35.7	-42.9	-42.9
③資金繰り	7.2	14.3	7.2
④採算(収益)	-14.3	21.5	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	0.0	-14.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-76.9	0.0	16.6	21.4	-57.2
収益	-61.5	-36.3	8.3	21.5	-42.9
総合	-61.5	-18.2	-16.7	0.0	-14.3

【繊維卸】

売上DI値は15.4、前期実績(7～9月期9.1)に比して6.3ポイントの上昇、収益DI値は15.4、前期実績(7～9月期0.0)に比して15.4ポイントの上昇、総合判断DI値は-7.7、前期実績(7～9月期-27.3)に比して19.6ポイントの上昇となった。<産業資材>車両用基布の10～12月期は前期同様落ち込んだ状態が続いた。他の資材用途は全商材で低調な動きで低位安定の状況にあった。<インテリア>10月は秋冬物の導入時期だが伸び悩み。11月以降少しずつ動きがあり11・12月は昨年対比で上回った状況にあった。<アパレル>円安、原料高によるコストアップにより売上不振が続く状況。

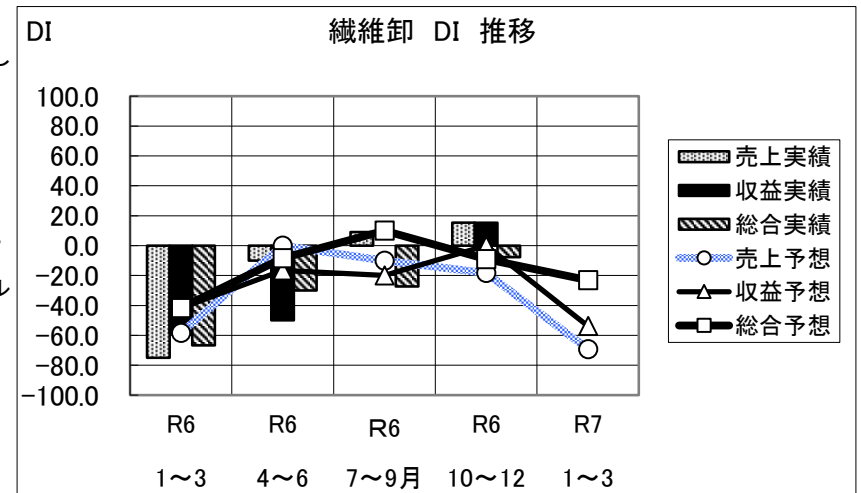
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-69.2ポイントの下降、収益DI値は-53.8ポイントの下降、総合判断DI値は-23.1ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布は今期同様に低調で、他資材用途も同様に厳しい見込み。<インテリア>全体的には1～3月は厳しい見通し。特に1月は12月の反動を警戒している。3月は移動・新生活の季節であり需要増に期待。<アパレル>状況が大きく好転する兆しが見えず厳しい見通し。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-46.1	15.4	-69.2
②製品・商品在庫	-38.5	-46.2	-46.2
③資金繰り	0.0	7.7	0.0
④採算(収益)	-23.1	15.4	-53.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-23.1	-7.7	-23.1



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-75.0	-10.0	9.1	15.4	-69.2
収益	-58.3	-50.0	0.0	15.4	-53.8
総合	-66.7	-30.0	-27.3	-7.7	-23.1

小売業

売上DI値は18.8、前期実績(7～9月期23.6)に比して-4.8ポイントの横バイ、収益DI値は-12.5、前期実績(7～9月期-5.9)に比して-6.6ポイントの下降、総合判断DI値は6.3、前期実績(7～9月期-11.7)に比して18.0ポイントの上昇となった。年末の消費意欲が高揚する時期であったが、インフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分できず、売上金額の低迷または売上の伸びに収益が比例しない状況が多く訴えられている。

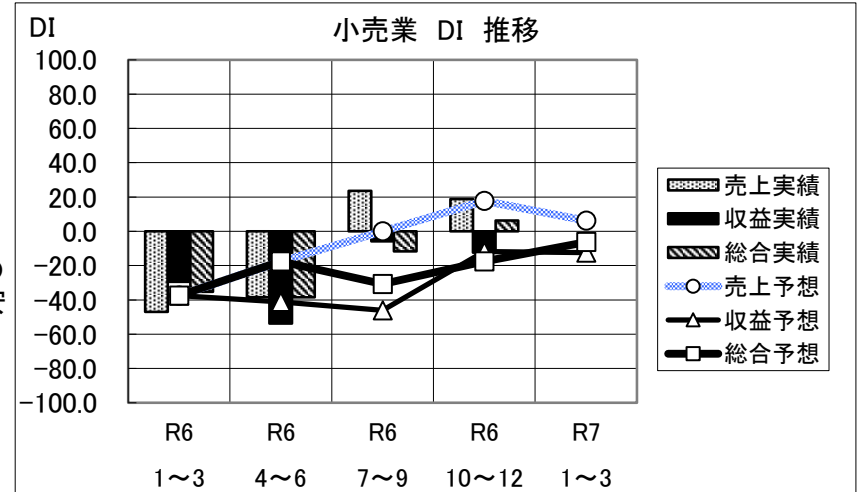
向こう3カ月の見通し

売上DI値は6.3ポイントの上昇、収益DI値は-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は-6.3ポイントの下降となっている。円安・インフレ等による消費意欲の低迷が懸念材料。蒲郡市の産業界は円安で厳しい事を指摘する声も挙げられた。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	18.8	6.3
②製品・商品在庫	-18.8	-18.8	-6.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-25.0	-12.5	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.3	6.3	-6.3



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-47.0	-38.4	23.6	18.8	6.3
収益	-29.4	-53.8	-5.9	-12.5	-12.5
総合	-35.3	-38.5	-11.7	6.3	-6.3

【飲食】

売上DI値は100.0、前期実績(7~9月期50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は100.0、前期実績(7~9月期50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0、前期実績(7~9月期50.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。年末の忘年会など団体利用で繁忙期であった。ただし全体的には細分化・小グループ化が進んでいる。

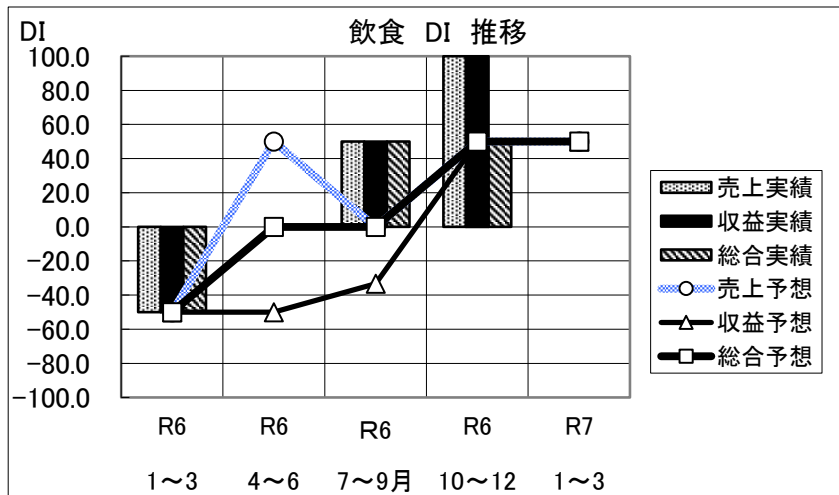
向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0ポイントの上昇となっている。年末の需要期を抜け閑散期に入るが、春先は歓送迎会等の団体利用に期待したい。ラリー・潮干狩り等の行楽イベントに合わせた利用も期待。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	100.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	50.0	50.0	50.0
④採算(収益)	50.0	100.0	50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	100.0	100.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	50.0	50.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	0.0	50.0	100.0	50.0
収益	-50.0	0.0	50.0	100.0	50.0
総合	-50.0	0.0	50.0	50.0	50.0

【石油等その他小売】

売上DI値は16.6、前期実績(7~9月期28.6)に比して-12.0ポイントの下降、収益DI値は-33.3、前期実績(7~9月期14.3)に比して-47.6ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期-14.3)に比して14.3ポイントの上昇となった。原油価格(WTI期近物)は、中東情勢への警戒感による上昇局面を挟みつつ供給増や需要軟化が意識される中でやや軟調に推移70ドル台から60ドル台後半で推移した。

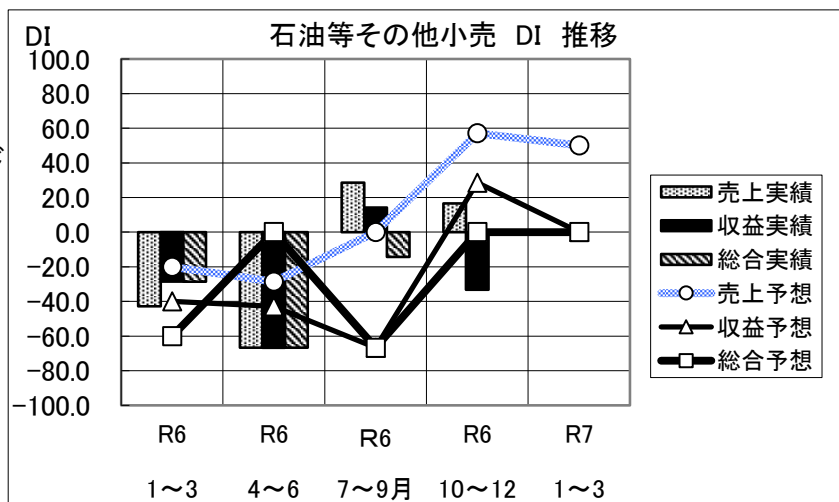
向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。OPECプラスは供給量調整を続ける見込みだが、トランプ政権による米国シェールオイルはじめ全体的に供給量は緩やかに拡大する見込み。一方で中東情勢の緊張による不安定化がリスクになるか。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	16.6	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-16.7	-16.7	0.0
④採算(収益)	-33.3	-33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-42.8	-66.7	28.6	16.6	50.0
収益	-28.6	-66.7	14.3	-33.3	0.0
総合	-28.6	-66.7	-14.3	0.0	0.0

サービス業

売上DI値は28.6、前期実績(7~9月期0.0)に比して28.6ポイントの上昇、収益DI値は28.6、前期実績(7~9月期-22.2)に比して50.8ポイントの上昇、総合判断DI値は28.6、前期実績(7~9月期-33.3)に比して61.9ポイントの上昇となった。

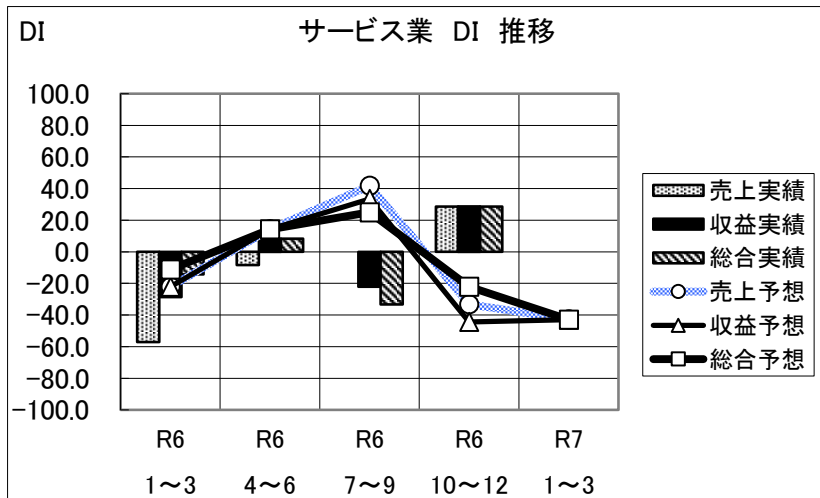
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-42.8ポイントの下降、収益DI値は-42.9ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9ポイントの下降となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	28.6	28.6	-42.8
②製品・商品在庫	28.6	28.6	-28.6
③資金繰り	42.8	42.8	-42.9
④採算(収益)	14.3	28.6	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.9	57.1	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	28.6	-42.9



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-57.1	-8.4	0.0	28.6	-42.8
収益	-28.6	8.3	-22.2	28.6	-42.9
総合	-14.3	8.3	-33.3	28.6	-42.9

【旅館】

売上DI値は75.0、前期実績(7~9月期40.0)に比して35.0ポイントの上昇、収益DI値は75.0、前期実績(7~9月期-20.0)に比して95.0ポイントの上昇、総合判断DI値は75.0、前期実績(7~9月期-20.0)に比して95.0ポイントの上昇となった。コロナ禍前と比較して宿泊客数は7~8割程度。利用形態の変化で企業・団体等の忘年会が減少し売上確保に苦戦したが、年末年始の長期連休で個人旅行を獲得できた。コロナ前を含め、インバウンドは過去最高の人数になっているが、当地区への影響はまだ限定的。

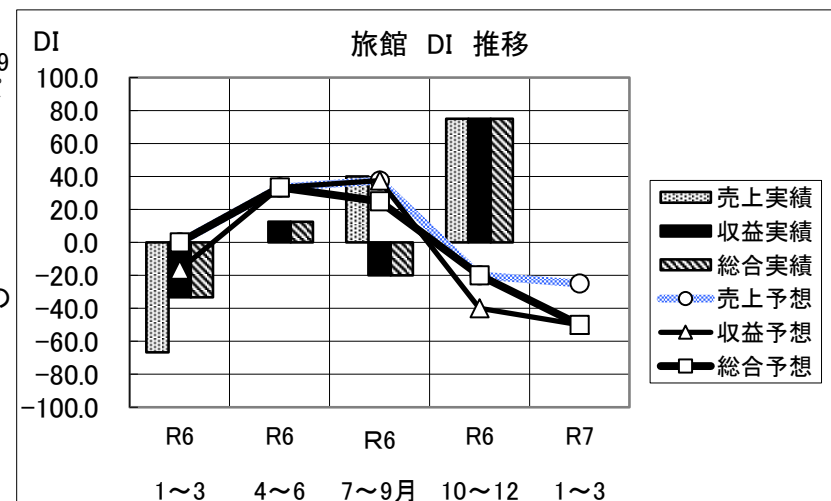
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-25.0ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。不透明な部分はあるが例年並みの見込み。インバウンドに関しては、春節・桜、4月以降の大阪万博・アジア競技大会等で期待している。ラリー三河湾・ラグーナテンボス等を通じた観光交流人口の増加を期待したい。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年10月~12月 に比べて	前期比 令和6年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	75.0	75.0	-25.0
②製品・商品在庫	50.0	50.0	-50.0
③資金繰り	75.0	75.0	-50.0
④採算(収益)	75.0	75.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	75.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	75.0	75.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-66.7	0.0	40.0	75.0	-25.0
収益	-33.3	12.5	-20.0	75.0	-50.0
総合	-33.3	12.5	-20.0	75.0	-50.0

運輸通信業

売上DI値は28.6、前期実績(7～9月期14.3)に比して14.3ポイントの上昇、収益DI値は16.6、前期実績(7～9月期14.3)に比して2.3ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(7～9月期-14.3)に比して14.3ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は16.6ポイントの上昇、総合判断DI値は16.6ポイントの上昇となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	57.1	28.6	14.3
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	-20.0
③資金繰り	0.0	0.0	-33.3
④採算(収益)	-16.6	16.6	16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	16.6

【旅客・貨物輸送・水運】

売上DI値は50.0、前期実績(7～9月期33.3)に比して16.7ポイントの上昇、収益DI値は40.0、前期実績(7～9月期33.3)に比して6.7ポイントの上昇、総合判断DI値は20.0、前期実績(7～9月期-16.6)に比して36.6ポイントの上昇となった。貨物輸送では増加傾向の売上に対し相応の利益を確保できたか半々。働時間管理(残業規制)の強化で、人手不足感の解消が業界的な課題となっている。

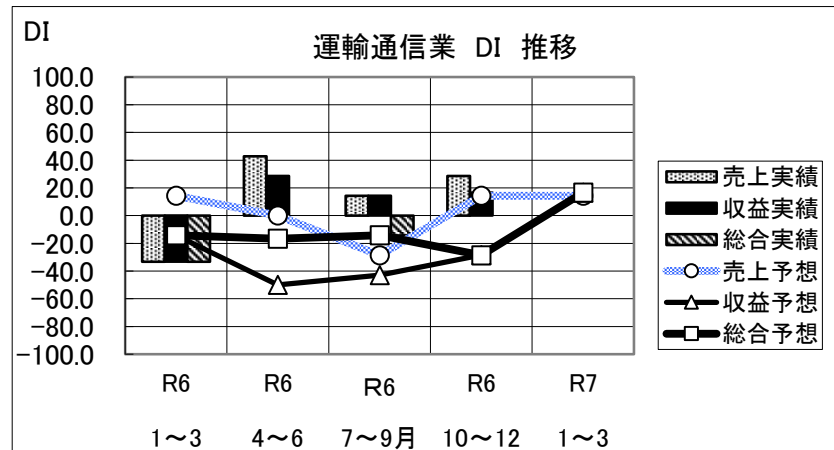
向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は40.0ポイントの上昇、総合判断DI値は40.0ポイントの上昇となっている。経済全体の活気が戻らず、横バイの見込みが強くなった。人手不足や労働時間管理あるいは効率化が業界の共通課題に。

(旅客・貨物輸送・水運)

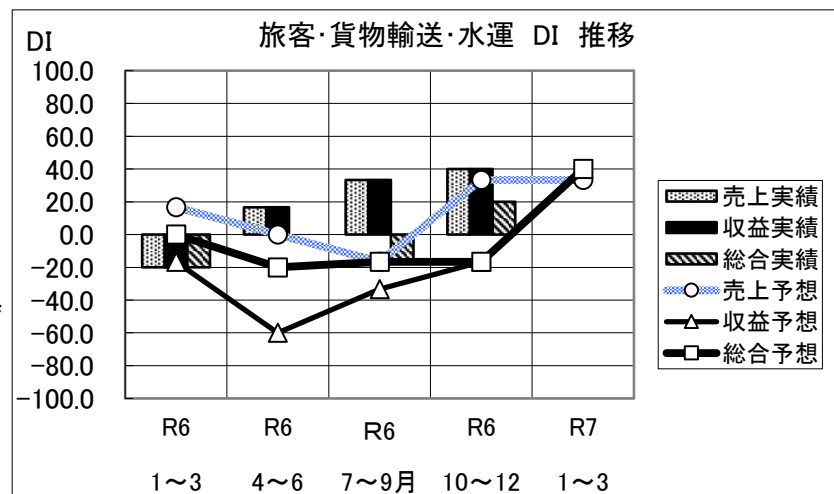
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年10月～12月 に比べて	前期比 令和6年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和7年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	83.3	50.0	33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	20.0	-20.0
④採算(収益)	0.0	40.0	40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	40.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	20.0	40.0



<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-33.3	42.8	14.3	28.6	14.3
収益	-33.3	28.6	14.3	16.6	16.6
総合	-33.3	0.0	-14.3	0.0	16.6

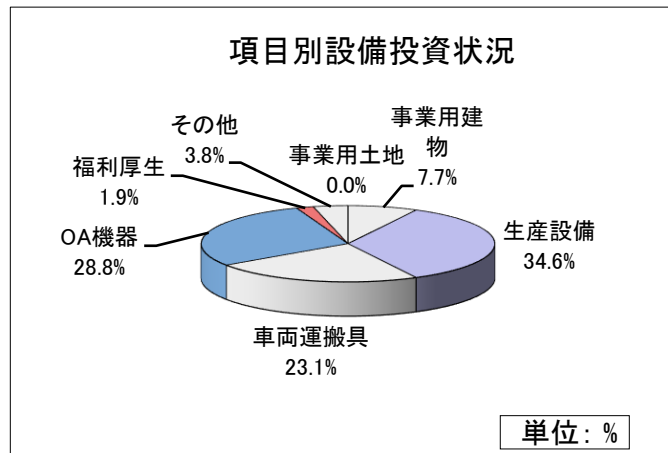
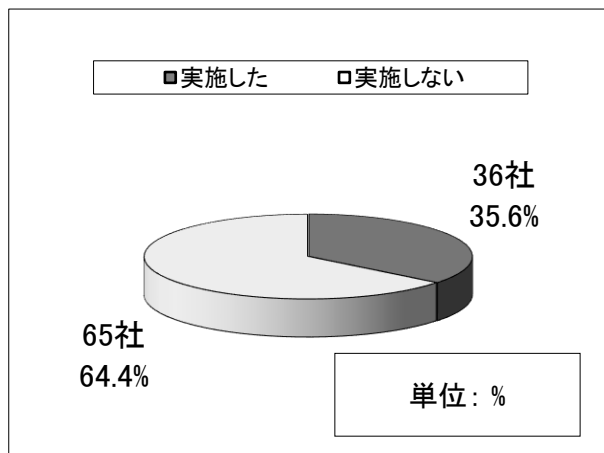


<業況判断DIの推移>

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-20.0	16.6	33.3	50.0	33.3
収益	-20.0	16.6	33.3	40.0	40.0
総合	-20.0	0.0	-16.6	20.0	40.0

7. 設備投資動向

＜今期 R6.10～12＞ 設備投資実施状況 全業種＞

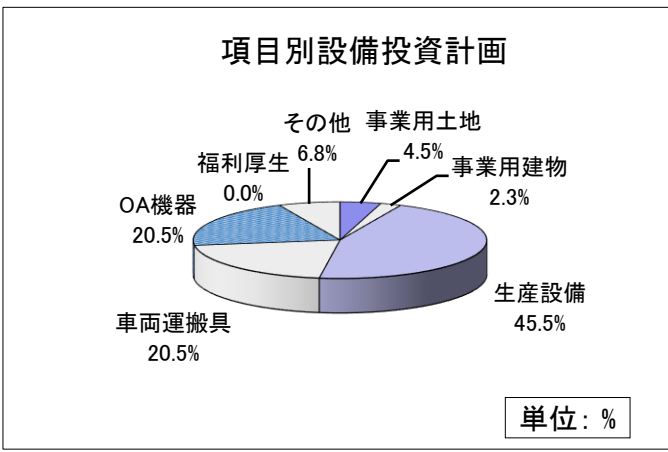
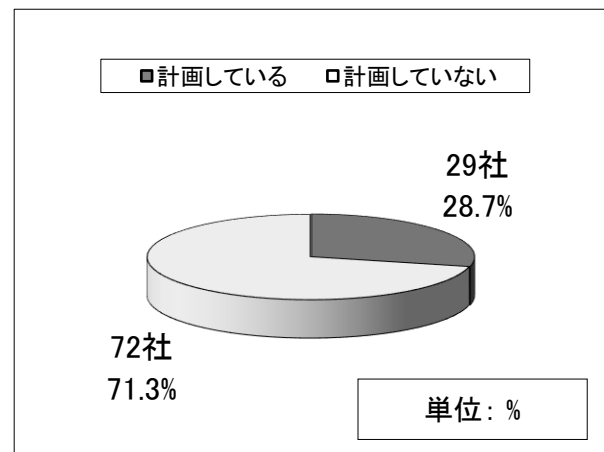


◎設備投資内容(全業種)

	今期
事業用土地	0
事業用建物	4
生産設備	18
車両運搬具	12
OA機器	15
福利厚生	1
その他	2
計	52

(単位：件)

＜来期 R7.1～3＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資計画内容(全業種)

	来期見通し
事業用土地	2
事業用建物	1
生産設備	20
車両運搬具	9
OA機器	9
福利厚生	0
その他	3
計	44

(単位：件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R6.10～12	36	20	3	1	4	3	5
2. 来期	R7.1～3	29	19	1	1	2	3	3

(単位：事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 101 社)

	項目	件数 %
1	原材料(燃料)高	40 39.6%
2	売上の停滞・減少	36 35.6%
3	利幅の縮小	28 27.7%
4	人手不足	24 23.8%
5	人件費の増加	12 11.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 48 社	原材料(燃料)高 20 社 41.7%	売上の停滞・減少 17 社 35.4%	利幅の縮小 16 社 33.3%
建設業 10 社	原材料(燃料)高 5 社 50.0%	売上の停滞・減少 4 社 40.0%	利幅の縮小 4 社 40.0%
卸売業 14 社	売上の停滞・減少 8 社 57.1%	原材料(燃料)高 5 社 35.7%	在庫過多 3 社 21.4%
小売業 16 社	人手不足 5 社 31.3%	売上の停滞・減少 4 社 25.0%	原材料(燃料)高 4 社 25.0%
サービス業 7 社	原材料(燃料)高 5 社 71.4%	売上の停滞・減少 2 社 28.6%	利幅の縮小 2 社 28.6%
運輸通信業 6 社	利幅の縮小 3 社 50.0%	人手不足 3 社 50.0%	売上の停滞・減少 1 社 16.7%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 105

番号	調査項目	単位	R7.2報告	基準日	R6.11報告	基準日	R6.8報告	基準日	R6.5報告	基準日	出典
1	人口	人	77,402	R7.2.1	77,659	R6.10.1	77,769	R6.7.1	77,904	R6.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,620		3,594		3,573		3,520		
2	世帯数	世帯	33,755	R7.2.1	33,802	R6.10.1	33,779	R6.7.1	33,656	R6.4.1	"
	(うち外国人)		1,854		1,839		1,820		1,761		
3	15才～65才生産人口	人	45,333	R7.1.1	45,435	R6.10.1			45,534	R6.4.1	"
	(うち外国人)		2,940		2,927				2,874		
4	全国完全失業率	%	2.4	R6.12月	2.9	R6.9月	2.6	R6.5月	2.6	R6.2月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R6.10～12	1.8	R6.7～9	2.4	R6.4～6	2.0	R6.1～3	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.25	R6.12月	1.24	R6.9月	1.24	R6.5月	1.26	R6.2月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.66	R6.12月	0.67	R6.9月	0.60	R6.5月	0.70	R6.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 「ハローワーク 業務月報」

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く前年同月比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 (実質季節調整後系列前期比)	消費支出 (前年同月比%) (実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	▲ 0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	-	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.0	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815	-	-	▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744	-	-	▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398	-	-	▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.1	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953	-	-	▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208	-	-	▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622	-	-	▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707	-	-	▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406	-	-	▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491	-	-	▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.9	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887	-	-	▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979	-	-	▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456	-	-	▲ 2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234	-	-	▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	▲ 0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128	-	-	▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057	-	-	0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.9	0.1	▲ 1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751	-	-	▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358	-	-	2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.8	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616	-	-	▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226	-	-	▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.4	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275	-	-	▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615	-	-	0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲ 0.5	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903	-	-	▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330	-	-	▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲ 0.2	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364	-	-	0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087	-	-	2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.8	0.2	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558	-	-	2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389	-	-	1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.4	0.5	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541	-	-	2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232	-	-	0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.1	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915	-	-	9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123	-	-	▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	143.7	▲ 2.9	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174	-	-	▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341	-	-	▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.5	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729	-	-	▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162	-	-	▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.9	▲ 7.6	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101	-	-	▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244	-	-	▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.4	5.3	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186	-	-	▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685	-	-	1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.5	1.7	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643	-	-	▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448	-	-	▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	136.8	0.3	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787	-	-	6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521	-	-	13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	136.4	0.6	▲ 5.1	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312	-	-	▲ 1.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182	-	-	▲ 0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	136.3	▲ 0.5	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178	-	-	▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004	-	-	▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	145.3	1.2	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393	-	-	▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690	-	-	6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	138.4	▲ 0.6	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120	-	-	▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294	-	-	▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	138.0	1.1	▲ 0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596	-	-	3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981	-	-	3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	135.8	▲ 0.4	5.1	17.9
9月	182	2.6	1.34	7.9	73,920	-	-	2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲ 5.7	76,590	-	-	1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲ 4.6	72,372	148.1	0.4	▲ 1.2	22.1
12月	171	2.5	1.35	▲ 4.7	67,249	-	-	▲ 1.3	20.9
2023年1月	197	2.4	1.35	▲ 11.7	63,604	-	-	▲ 0.3	22.9
(令和5年)2月	194	2.6	1.34	▲ 1.5	64,426	145.1	1.2	1.6	26.9
3月	188	2.8	1.32	▲ 7.6	73,693	-	-	▲ 1.9	37.8
4月	188	2.6	1.32	▲ 12.5	67,250	-	-	▲ 4.4	21.9
5月	191	2.6	1.31	▲ 4.2	69,561	146.1	0.5	▲ 4.0	20.6
6月	186	2.5	1.30	▲ 8.1	71,015	-	-	▲ 4.2	25.9
7月	176	2.7	1.29	1.7	68,151	-	-	▲ 5.0	25.3
8月	177	2.7	1.29	▲ 8.9	70,389	145.0	▲ 1.0	▲ 2.5	21.3
9月	182	2.6	1.29	3.0	68,941	-	-	▲ 2.8	27.2
10月	175	2.5	1.30	▲ 2.9	71,769	-	-	▲ 2.5	24.3
11月	169	2.5	1.28	▲ 4.1	66,238	155.5	0.2	▲ 2.9	25.5
12月	156	2.4	1.27	7.3	64,586	-	-	▲ 2.5	23.2
2024年1月	163	2.4	1.27	8.9	58,849	-	-	▲ 6.3	21.6
(令和6年)2月	177	2.6	1.26	7.7	59,162	148.4	▲ 0.6	▲ 0.5	22.6
3月	185	2.6	1.28	23.7	64,265	-	-	▲ 1.2	30.3
4月	193	2.6	1.26	10.7	76,583	-	-	0.5	20.7
5月	193	2.6	1.24	14.5	65,945	149.3	0.5	▲ 1.8	20.1
6月	181	2.5	1.23	9.7	66,285	-	-	▲ 1.4	24.1
7月	188	2.7	1.24	2.2	68,014	-	-	0.1	26.3
8月	175	2.5	1.24	9.7	66,819	149.2	0.3	▲ 1.9	20.8
9月	173	2.4	1.24	2.3	68,548	-	-	▲ 1.1	27.4
10月	170	2.5	1.25	33.1	69,669	-	-	▲ 1.3	25.9
11月	164	2.5	1.25	16.9	65,037	-	-	▲ 0.4	24.9
12月	154	2.4	1.25	-	62,957	-	-	2.7	21.0